
子どもの接種に際して必要なコミュニケーションと環境整備 (行政・医療者・養育者・子どもの相互で)

- * 接種翌日は副反応として接種部位の痛み、発熱、からだのだるさ、頭痛などが多く起こることを事前に伝える。
 - ・上記により、登校や課外活動に影響が出る場合があることを伝える。
- * 頻度は低いが、早期の対処が必要な重篤な副反応に注意をすることを伝える。
 - ・アナフィラキシー　：接種直後の皮膚のかゆみや赤み、息苦しさやゼーゼー、吐き気
 - ・心筋炎/心膜炎　　：接種後1週間以内の胸の痛み、息切れ、心臓のドキドキ
- * かかりつけ医がある場合は、接種に関する意見を尋ねておく。
- * 子どもが落ち着いて接種を受けることのできる環境での接種が望ましい。
- * 痛み過敏な子どもへの配慮を行う。
 - ・リラックスできる会話や、痛みから気をそらされるような心がけ。
- * 注射や採血で気分が悪くなったことがある子どもへの配慮
 - ・ベッドで横臥しての接種、接種後にすぐに立ち上がらせないなど。
- * 子どもの多様性への配慮を行う。
 - ・知的および心的成熟の度合いにより、ワクチンに対する受容性や効果への期待、副反応の受け止めにも個人差が大きいことを理解する。
 - ・本人の理解度に合わせて、平易な言葉を用い、可能な限りわかりやすく説明する。
- * 子どもの意思を尊重する。
 - ・より健やかな毎日を送るために、子ども自身が適切な選択に関われるように周囲のおとなはサポートする。